



# 令和7(2025)年度 病害虫発生予報 第5号

令和7(2025)年8月25日  
栃木県農業総合研究センター  
環境技術指導部

## 害虫と高温性病害の増加に引き続き注意しましょう。

予想期間 8月下旬～9月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

### 1 水稲 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ、イネカメムシ、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメ、イネホソミドリカスミカメ)

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 7月下旬の水田におけるすくい取り調査での発生量は平年並 (成幼虫数 ほ場率：平年比 95%、頭数：平年比 106%) (±)。
  - ・ 向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量は平年並か少ない (±～+)。
- (3) 対 策 ・ 出穂期の薬剤防除後も発生が多い場合は、7～10 日間隔で 1～2 回の追加防除を行う。
  - ・ 周辺のほ場と出穂時期が異なる品種・作型では、被害が集中しやすいため防除を徹底する。
  - ・ 斑点米カメムシ類の誘引源となる水田内のイネ科雑草、ホタルイ等を防除する。
- (4) 備 考 ・ [令和7\(2025\)年度植物防疫ニュースNo.8](#)、[令和7\(2025\)年度病害虫発生予察注意報第2号\(水稲・イネカメムシ\)](#)、[令和7\(2025\)年度病害虫発生予察注意報第3号\(水稲・斑点米カメムシ類\)](#)、[イネカメムシの薬剤感受性検定結果](#)、[病害虫防除のポイント No.16](#)、[No.23](#) を当センターホームページ (HP) に掲載中。

### 2 大豆 吸実性カメムシ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い (+)。
  - ・ 向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量は平年並か少ない (±～+)。
- (3) 対 策 ・ 開花期の 15 日後から子実肥大後期 (9月下旬) までにトレボン乳剤 (I:3A) 等を 10～14 日間隔で散布する。

### 3 いちご 炭疽病

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並 (ほ場率：平年比 93%、株率：平年比 100%) (±)。
  - ・ 向こう 1 か月の気温は高い (+)。
- (3) 対 策 ・ 胞子の飛散を防ぐため、点滴チューブを用いるなど、できるだけ水の跳ね返りのない方法でかん水を行うのが望ましい。
  - ・ 本ぼへの罹病株の持ち込みを防ぐため、育苗時の防除を徹底する。予防を主体に、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
  - ・ 発病株や周辺株は早急に抜き取ってほ場外へ持ち出し、嫌氣的発酵処理 (罹病残さを肥料袋等に詰め、空気を排出して口を閉じ、日当たりの良い野外に放置する) 後に処分する。
- (4) 備 考 ・ [イチゴ炭疽病菌の薬剤感受性検定結果](#)、[令和7\(2025\)年度植物防疫ニュースNo.10](#) を HP に掲載中。

### 4 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並 (ほ場率：平年比 125%、株率：平年比 103%) (±)。
  - ・ 向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量は平年並か少ない (±～+)。
- (3) 対 策 ・ 育苗期後半～定植当日にモベントフロアブル (I:23) をかん注する。なお、天敵を導入するほ場では、天敵への影響日数 (45 日) に注意して使用する。
  - ・ 定植苗の高濃度炭酸ガス処理を適切に行う。
  - ・ 化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、必ず RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布するとともに、抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤を活用する。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#) を HP に掲載中。

### 5 トマト コナジラミ類 (黄化葉巻病 (TYLCV)、黄化病 (ToCV))

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在のコナジラミ類の発生量はやや多い (+)。
  - ・ 向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量は平年並か少ない (±～+)。

- (3) 対策 ・ ウイルスを媒介するコナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部（出入り口、側窓、天窗）に0.4mm目合以下の防虫ネットを展張し、特に出入り口は二重にする。  
・ 黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努める。  
・ 発生が見られた場合は、アニキ乳剤(I:6)等を散布する。  
・ 黄化葉巻病の耐病性品種であっても、本病に感染すると伝染源となるため、感受性品種と同様に適切な防除を行う。  
・ 発病株は見つけ次第抜き取り、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
- (4) 備考 ・ [病害虫防除対策のポイントNo22](#)、[タバココナジラミ類薬剤感受性検定結果](#)をHPに掲載中。

---

## 6 ねぎ シロイチモジヨトウ

- (1) 発生予想 ・ 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い（+）。  
・ 8月第2半旬までのフェロモントラップへの成虫誘殺数は多い（+）。  
・ 向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は平年並か少ない（±～+）。
- (3) 対策 ・ ほ場をこまめに観察し、本種による被害葉（葉が白く透けて垂れ下がる）を探すなど早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。  
・ 幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるため、葉に食入する前の若齢のうちに薬剤防除を行う。

---

## 7 だいず・野菜類・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 ・ 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 8月第2半旬までのフェロモントラップへの誘殺数はやや多い（+）。  
・ 現在の発生量はだいず、いちご、なすで多い（+）。  
・ 向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は平年並か少ない（±～+）。
- (3) 対策 ・ 葉裏をよく観察し、早期発見に努める。  
・ 幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。  
・ 薬剤の浸透性を高める展着剤の利用が有効である。  
・ 施設開口部に4mm目合以下の防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防止する。  
・ 卵塊や分散前の幼虫は、寄生葉ごと摘み取り、発生源とならないように適切に処分する。
- (4) 備考 ・ [令和7\(2025\)年度植物防疫ニュースNo.13](#)をHPに掲載中。

---

## 8 だいず・野菜類・花き類 オオタバコガ

- (1) 発生予想 ・ 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 8月第2半旬までのフェロモントラップへの成虫誘殺数は多い（+）。  
・ 現在の発生量はトマトで平年並（ほ場率：平年比97%）（±）、なすで多い（ほ場率：平年比236%）（+）。  
・ 向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は平年並か少ない（±～+）。
- (3) 対策 ・ 新しい食害痕や虫ふんを目印に早期発見に努める。  
・ 食害痕等を発見したらアニキ乳剤(I:6)（いちご、トマト、なす、きく等）やプレバソンプロアブル5(I:28)（だいず、トマト、なす等）等で速やかに防除する。  
・ 薬剤の浸透性を高める展着剤の利用が有効である。  
・ 施設開口部に4mm目合以下の防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防止する。  
・ 摘除した果実や脇芽に幼虫が寄生していることがあるため、残さはほ場の外へ持ち出し、発生源とならないように適切に処分する。  
・ 発生ほ場では、土中に残る蛹を殺すため、栽培終了後、速やかに十分耕耘する。
- (4) 備考 ・ [令和7\(2025\)年度植物防疫ニュースNo.13](#)をHPに掲載中。

---

## 9 なし ハダニ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量が多い（ほ場率：平年比214%、葉率：平年比357%）（+）。  
・ 向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は平年並か少ない（±～+）。
- (3) 対策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。  
・ 化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、必ずRACコードの異なる薬剤をローテーション散布するとともに、抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤を活用する。  
・ 天敵製剤の活用や土着天敵の保護利用に取り組む園地では、天敵に影響のある薬剤の使用をできるだけ控える。  
・ 品種によって収穫時期が異なるため、農薬の使用時期（収穫前日数）に十分注意する。

- (4) 備考・ [令和7\(2025\)年度植物防疫ニュースNo.12](#)、[ナミハダニ\(園芸作物\)の薬剤感受性検定結果](#)をHPに掲載中。

## 10 りんご 褐斑病

- (1) 発生予想・ 発生量：**多い**
- (2) 根 拠・ 現在の発生量は多い（ほ場率：平年比 128%、葉率：平年比 200%）（+）。  
・ 向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は平年並か少ない（-～±）。
- (3) 対 策・ 予防を主体に、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。  
・ 発生が見られた場合、ファンタジスタ顆粒水和剤(F:11)等の治療効果の高い薬剤を散布する。
- (4) 備考・ [令和7\(2025\)年度植物防疫ニュースNo.11](#)、[リンゴ褐斑病菌の薬剤感受性検定結果](#)をHPに掲載中。

## 11 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
だいち	べと病	平年並	平年並	なし	ナシヒメシンクイ	やや多	多
なす	アブラムシ類	やや多	多	きく	アザミウマ類	やや多	多
りんご	斑点落葉病	やや多	やや多				

### 【 季節の病害虫防除対策 】

#### ○ほ場内外の除草は害虫防除の基本です！

- 野菜類や花き類では、ほ場内外の雑草はハダニ類やコナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ類の温床となります。適切な除草で、害虫が発生しにくい環境を作りましょう。

#### ○定植前・定植時の防除の徹底

- いちご、トマト、きゅうり等の施設栽培では、**定植前～定植後にかけて、施設内に病害虫を「入れない・持ち込まない」対策を徹底しましょう。**
- 定植時の苗に対する薬剤処理（粒剤・灌注剤等）によって、施設への害虫の持ち込みを防止しましょう。
- 施設開口部への防虫ネットの展張によって、コナジラミ類やアザミウマ類等の微小害虫、ハスモンヨトウやオオタバコガ等のチョウ目害虫の侵入を防止しましょう。
- イチゴ炭疽病やイチゴ萎黄病、トマト黄化葉巻病（タバココナジラミ媒介）、キュウリ黄化えそ病（ミナミキイロアザミウマ媒介）等の施設内での発生・まん延を防止するため、定植時に感染が疑われる苗は適切に処分し、健全苗の定植に努めましょう。

#### ○トマト・なす等 トマトキバガ

- 県内の夏秋トマトでトマトキバガによる被害が発生しています。秋冬作においても、施設内に入れたい対策（防虫ネット等）を徹底し、疑わしい虫や被害を見つけた場合には、適切に薬剤防除を行いましょう。
- [令和7\(2025\)年度植物防疫ニュース No. 3](#)をHPに掲載中です。

#### ○かんしょ サツマイモ基腐病

- 本病は栃木県内での発生は確認されていませんが、令和7(2025)年8月現在、全国36都道県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。
- 健全な種苗の導入及び発病株の早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。
- [サツマイモ基腐病に注意！](#)を当センターHPに掲載中です。

### 農薬は適正に使用しましょう

- 農薬を適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょう。特に使用時期（収穫前日数）に注意して農薬を使用しましょう。
- 化学農薬の抵抗性の発達を防ぐため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

### 1 か月気象予報（予報期間 8 月 23 日から 9 月 22 日 8 月 21 日気象庁発表）

- ・ 6 月中旬以降、暖かい空気に覆われ、気温の高い状態が続いています。向こう 1 か月の気温も、暖かい空気に覆われやすいため、高い状態が続くでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・ 6 月下旬以降、高気圧に覆われ、降水量の少ない状態が続いている所があります。向こう 1 か月の降水量も、高気圧に覆われやすいため、平年並か少なく、日照時間は多いでしょう。

向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10	10	80
降水量	40	40	20
日照時間	10	30	60

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せください。病虫害情報発表のお知らせは X 栃木県農政部 (@tochigi\_nousei)」、農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧になれます。

～栃木県からのお知らせです～

6月～8月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- ・安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- ・いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！
- ・農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょう！
- ・周辺への配慮！ 住宅地等でやむを得ず農薬を使用する際は十分に配慮しましょう！
- ・農薬散布のその後に！ 防除器具の洗浄も必ず行いましょう！